京都大学 KYOTO UNIVERSITY

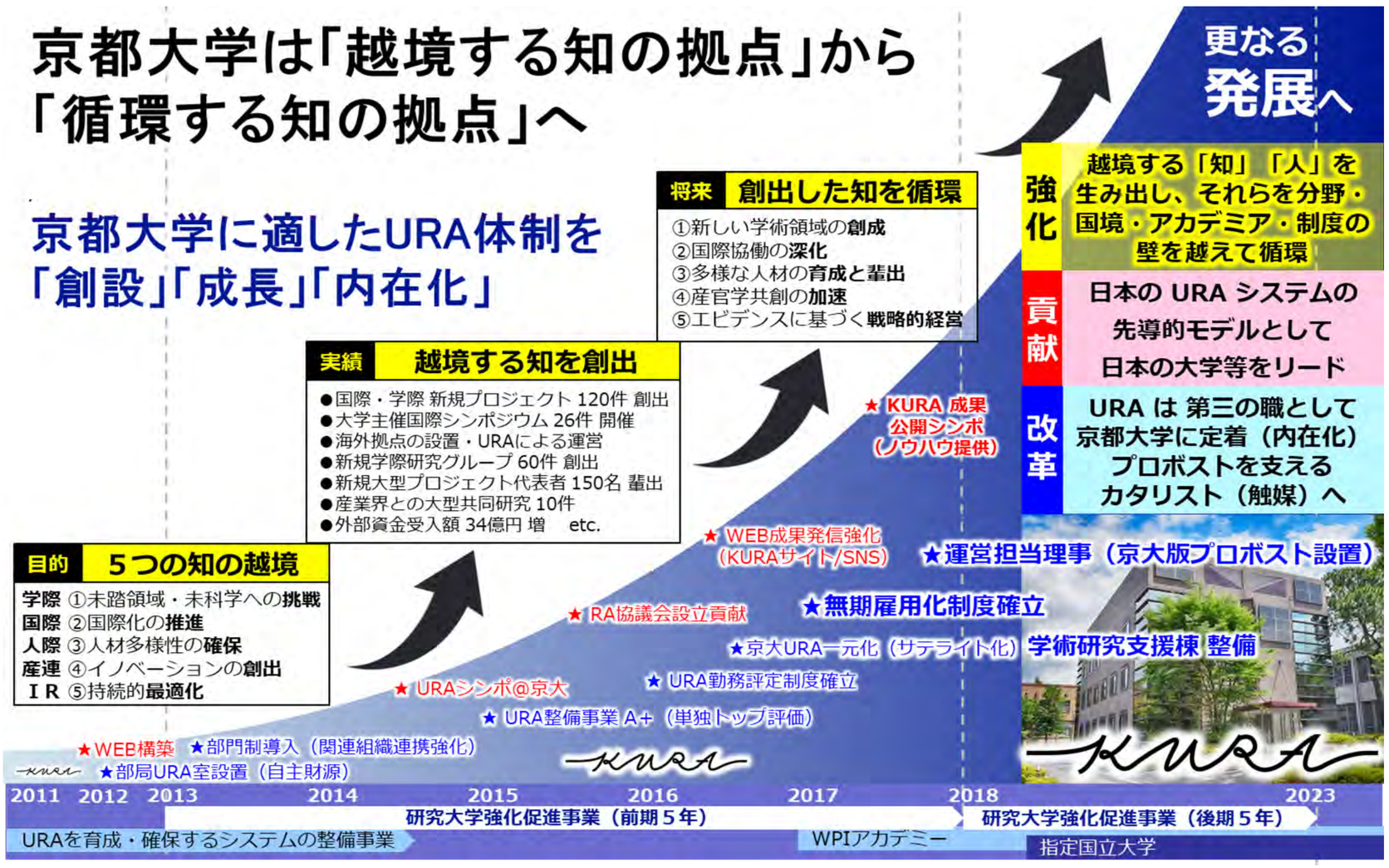
P_10

京都大学におけるURAの定着化に向けた取り組み

関 二郎、鮎川 慧、白井 哲哉、大菊 鋼、佐治 英郎（京都大学 学術研究支援室）

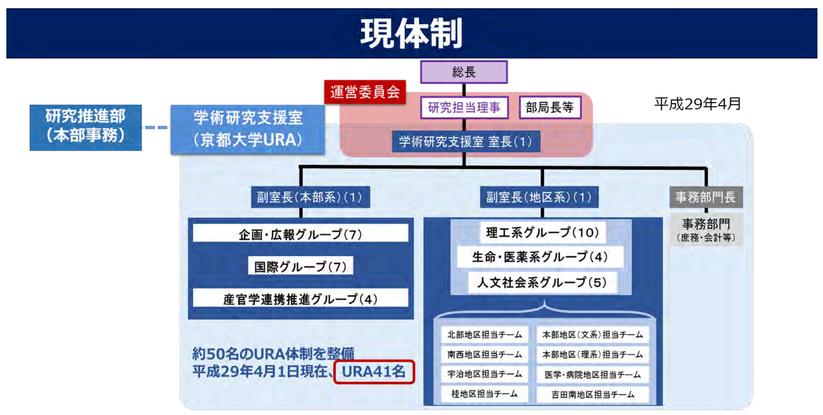
■ 京都大学は、文科省「URAを育成・確保するシステムの整備」事業への採択を受け、2012年4月にURAオフィス(学術研究支援室/KURA)を設立した。当初8名のURAで始まり、その後自主経費で部局URA組織を設置、また文科省「研究大学強化促進事業」の採択を受けて増員し、さらに2016年4月には部局URAをKURAに集約(サテライト化)し、5年経過した現在、41名のURAを抱える日本最大規模のURA組織へと成長した。

■ 本発表では、「京都大学の卓越した知の創造活動を、研究者の視点に立って、学問・社会を発展させる力に変える」という新ビジョンの下、研究力強化に向けたKURAならではの取り組みやURAシステムの定着化に向けたソフト・ハード面の整備、さらに今後のKURAの目指すべき姿（将来構想）に関する検討状況について紹介する。



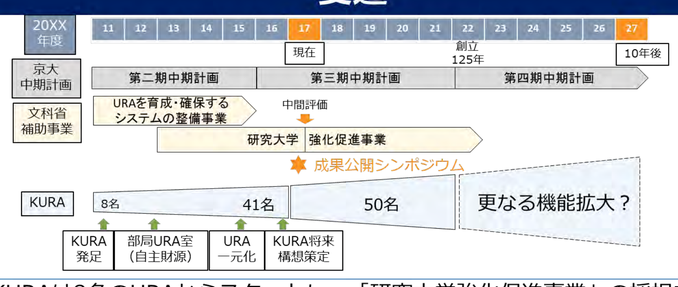
【KURAの組織】

現体制



■ KURAでは、各地区・各部局の個々の研究者を支援するURA（地区系）と、全学的な研究支援策の企画・運営、国際化推進、産官学連携等を行うURA（本部系）が、一体的・横断的・機動的に研究支援業務を行っている。

変遷

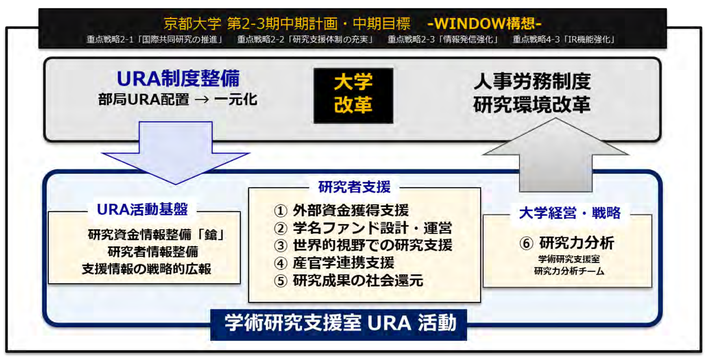


■ KURAは8名のURAからスタートし、「研究大学強化促進事業」の採択を受けて増員、さらに2016/4には部局URAをKURAに集約（サテライト化）し、現在41名のURAを抱える日本最大規模のURA組織へと成長。

■ 昨年度末にはKURA将来構想を策定し、更なる機能拡大を目指している。

【定着化に向けた取り組み】

活動の全体像



■ KURAは、京都大学の改革と将来構想を推進する重要な役割を担う組織として、研究力強化に向けた活動・改革を加速。

ビジョン・位置づけ

新ビジョンの策定

京都大学の卓越した知の創造活動を

研究者の視点に立って

学問・社会を発展させる

力に変える！

学内位置付けの明確化

■ 組織一元化後、全員参加で新ビジョンを策定。
■ KURAが目指す姿を共有し、ベクトルを合わせる。

■ 教員・研究者、執行部、事務組織、関連研究支援組織間と協働し、研究力強化、国際化、大学経営等を戦略的に支援・推進。

ハード面の整備

学術研究支援棟（KURA棟）

■ 学術研究支援棟（約2,000㎡）を自主財源で整備した。
■ 一つ屋根の下で、全URAが情報共有・連携できる体制に。

成果の見える化

KURAのホームページ

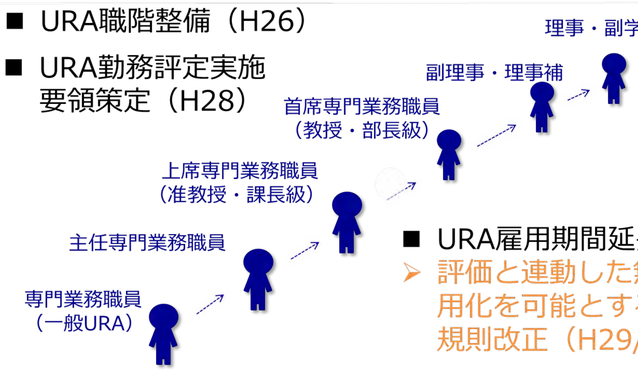
成果公開シンポジウム2017

■ KURAの活動・成果を随時WEBで公開。
■ 京都大学URA成果公開シンポジウムを2017年5月に開催。学内で実施している講習の公開や「科研費の教科書」の配布を通じて、学外の研究者やURAへもKURAの成果を還元。日本におけるURAの定着化への貢献を目指す。

人事制度整備

■ URA職階整備（H26）

■ URA勤務評定実施要領策定（H28）



■ URA雇用期間延長
➢ 評価と連動した無期雇用化を可能とする就業規則改正（H29/3）

■ URA職階整備、勤務評定実施要領の策定、無期雇用化を可能とする就業規則改正など、URAの人事制度の整備を進めている。

人材育成

✓ 独自のURA育成カリキュラムの作成／受講
✓ 豊富な研修機会(RA協議会、セミナー・講習会参加、海外URA関連学会参加等)
✓ 省庁との人事交流(経産省、農水省等)
✓ 各自の専門性を維持・強化させるためエフォート(５%)を承認(学会参加等)など

【URA育成カリキュラムレベル１の講義内容】

研究戦略推進支援業務	プレアワード業務	ポストアワード業務	関連専門業務
URA業務の全体像	競争的資金制度	研究費の取り扱いについて	特許と大学の知的財産活動
日本の学術政策について	プロジェクトマネジメント	研究倫理とコンプライアンス	広報支援のあり方、やり方
情報探索の方法	申請書の書き方 ヒアリング審査対策	契約実務のための基礎知識	

■ URAの育成・成長のための取組を進めている。

【将来構想】

KURA将来構想検討ワーキンググループ

■趣旨
平成25年度に採択された文部科学省 研究大学強化促進事業の中間評価を迎えるにあたり、当該事業の機能の中枢として整備してきた学術研究支援室(KURA)の将来構想を検討するため、以下の事項を検討する。

1. 今後５年間にKURAが果たす役割
2. 事業終了後のリサーチアドミニストレーター（URA）の在り方について

■ワーキンググループ委員
- 委員長：K理事補
- 委員：研究科長4名、研究所長2名、企画・情報部長、研究推進部長、KURA副室長2名

■KURA将来構想検討報告書
- 平成29年3月31日、KURA運営委員会にて最終化

将来構想（サマリー）

1．KURAの役割

執行部・部局・研究者・事務組織等を繋ぎ、大学の発展・新たな価値創造に貢献する「カタリスト (Catalyst)」へ！

2．定着化に向けた今後の取り組み

URAの学内認知度をさらに高め、URA（特に若手）の無期雇用化に向けた人事制度とキャリアパスの整備を進めるとともに、URAの雇用財源確保も見据えて、大学経営や産官学連携に対するURAの寄与を拡大する。

多才で多彩な集団